

○ 騒音・振動

騒音に係る環境基準については、航空機騒音は達成されていますが、自動車騒音及び鉄道騒音は達成されていない地域があります。

○ 有害化学物質

有害化学物質に係る環境基準や指針値は満たされています。

P R T R制度に基づき、市内の事業所から化学物質の排出量等の届出を受けています。

届出排出量の推移

年 度	排 出 量
平成 14 年度	2,255 t
平成 15 年度	2,245 t
平成 16 年度	1,990 t
平成 17 年度	1,894 t
平成 18 年度	1,967 t

○ ゼロエミッションシティ広島への推進

(1) 一般廃棄物（ごみ）

ごみの減量化、資源化・再利用及び生活環境の保全を図るため、家庭ごみの8種類分別収集を行っています。

ごみ排出量の推移

単位：トン

年 度	総量	家庭ごみ	事業ごみ		都市美化ごみ (町内清掃等)
			一般廃棄物	産業廃棄物	
15	443,278	238,579	196,055	6,298	2,346
16	421,971	226,347	186,113	5,720	3,791
17	414,819	227,555	178,763	6,122	2,379
18	404,845	233,084	163,692	5,937	2,132
19	394,418	229,202	156,788	6,438	1,990

※平成 17 年度、18 年度は、湯来町及び杉並台からの排出量(17 年度 1,447 トン、18 年度 1,694 トン)は含まない。

家庭ごみ処理の現況

可燃ごみ	市内 5 か所の清掃工場において、全量を焼却
その他プラ(容器包装以外のプラスチック)	中工場焼却
不燃ごみ	玖谷埋立地で埋立
大型ごみ	大型ごみ破砕処理施設において破砕後、再生、焼却及び埋立
資源ごみ(びん、缶、紙、布類)	西部リサイクルプラザ等で種類ごとに選別し、再生
ペットボトル	選別施設(民間事業者)で選別した後、容器包装リサイクルルートで再生
有害ごみ(蛍光灯、乾電池等)	水銀回収プラントを有する民間業者に委託して無害化処分

(2) 産業廃棄物

排出量は、約 182 万ト力で、業種別では、電気・ガス・水道業が全体の約 99%を占めています。種類別では、汚泥、がれき類、金属くずが全体の 88%

を占めています。

産業廃棄物の処理状況

区 分	処 理 量
再生利用	約 70 万 t (約 39%)
中間処理により減量化	約 92 万 t (約 50%)
最終処分	約 15 万 t (約 8%)
一時保管	約 5 万 t (約 3%)

<平成 15 年(2003 年)>

快適環境

○ 「水の都ひろしま」の推進

平成 15 年(2003 年)1 月に策定した「水の都ひろしま」構想の様々な取り組みを計画的・効果的に進めるため、同年 10 月に「水の都ひろしま」推進計画を策定しました。この計画に基づき、水辺のオープンカフェや水辺のコンサートなど、4 つのモデル地区で、地区の特性に応じた取り組みを実施しています。

○ 潤いのある緑のまちづくりの推進

平成 13 年(2001 年)1 月に、本市の緑のマスタープランとして策定した「広島市緑の基本計画」と、その行動計画である広島市緑の推進計画に基づき、21 世紀の緑のまちづくりを推進しています。

○ 良好な都市景観の形成

「広島市の魅力ある風景づくりに関する基本的な方針」を平成 14 年(2002 年)1 月に策定し、平成 16 年(2004 年)3 月に、施策を具体的に展開するための行動指針となる「広島市の魅力ある風景づくり基本計画」を策定しました。また、この基本計画の各種施策を具体的に展開していくため、平成 18 年(2006 年)4 月に広島市景観条例を施行し、さらに、平成 20 年(2008 年)2 月には、同条例に基づく景観計画を順次策定するなど、良好な景観の形成に向けた取組を推進しています。

○ 「きれいなひろしま・まちづくり・推進事業の展開」

ごみのない、清潔で快適なまちを実現するため、平成 2 年度(1990 年度)から、市民、事業者の協力を得ながら「きれいなひろしま・まちづくり推進事業」を展開しています。

○ 文化財の保護・活用等の推進

文化財を保護し、正しく後世に伝え、適切な活用を図るため、調査・指定、指定文化財の保存事業、保護思想の普及啓発を図っています。

地球環境

○ 地球温暖化対策の推進

本市では、広島市地球温暖化対策地域推進計画に基づき、計画的な温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

(1) 本市域からの温室効果ガス排出量

平成18年度(2006年度)速報値は622万トンで、基準年度(平成2年度(1990年度))から2万トン(0.3%)減少しています。

(2) 公共交通機関の利用者数

公共交通機関の一日平均乗車人員は、近年減少傾向でしたが、平成14年度(2002年度)以降は横ばい傾向です。

<平成18年度(2006年度)末現在>

(3) 市内における新エネルギー等の導入状況

市内における新エネルギー等の導入は、天然ガスコージェネレーションなどが、増加しています。

市内における新エネルギー等の導入状況

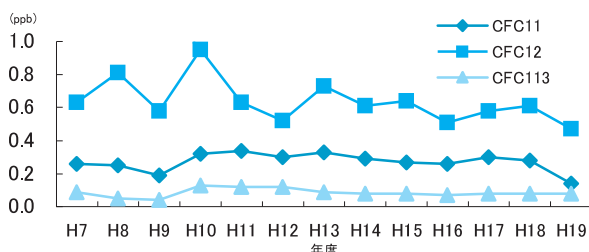
区分	導入状況
公共・産業用太陽熱	21施設
公共・産業用太陽光発電	27件
天然ガスコージェネレーション	343台
ごみ焼却余熱利用	5施設(18,200kW)
消化ガス発電	1施設(650kW)

<平成19年度(2007年度)末現在>

○ オゾン層の保護

オゾン層破壊の原因物質であるフロン濃度は、本市においては、横ばい傾向で推移しています。

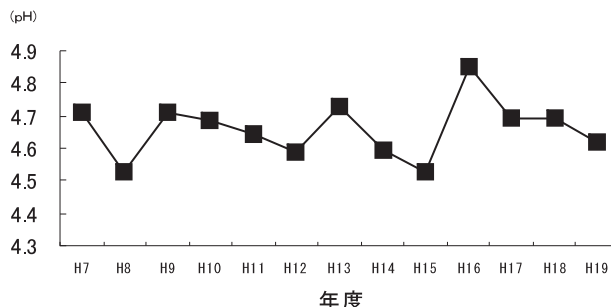
環境大気中のフロン濃度の推移



○ 酸性雨の防止

酸性雨対策を適正に実施するための基礎資料として、調査を定期的に行っています。

雨水のpHの推移



○ 国際協力の推進

都市環境協定への参加や、アジア地域等からの研修生の受入れなどを行っています。

市民・事業者・行政の協働

○ 環境情報の収集と提供

環境に関する情報を十分得ていると思う市民の割合が、51.2%になっています。

○ 環境教育・環境学習の推進

環境に関する出前講座に参加した人数は、9,085人に増加しています。

公民館での環境学習グループ登録数は、昨年とほぼ同数の6グループです。

○ 市民・事業者の自主的な環境保全活動の促進

ひろしま情報a-ネット(ひろしま市民活動支援総合情報システム)の環境保全分野に登録されている団体数は52団体となっています。

○ 市の率先的な取組の推進

平成19年度(2007年度)の市役所庁舎ISO14001の環境目標達成率は73.5%になっています。